

## 保健物理・環境科学部会長就任挨拶

米原英典（放射線医学総合研究所）

この度第5期原子力学会保健物理・環境科学部会の部会長に就任することになりました放射線医学総合研究所の米原です。保健物理・環境科学部会の立ち上げに貢献された小佐古初代及び第2期部会長、第3期の内田元部会長、そして第4期の飯田前部会長の後を引き継いで、微力ながら本部会の発展のために尽くしたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

我が国の放射線防護や環境放射能の研究は、すでに50年以上にわたる経験の蓄積があり、すでに成熟しているとも考えられ、ややもすれば新たな課題を見失っている感じもあります。しかし、放射線防護の基本となるICRP主勧告が昨年末に改定されたことや、原子力ルネッサンスと呼ばれるように周辺国や我が国で新たな原子力発電所の建設が計画されていること、放射性廃棄物処分などの議論が進められていることなど考えると、放射線防護や環境放射能の研究分野は今後対応すべき新たな課題や重要課題が山積しています。このような局面に対応するためには、この分野の研究者の協力体制が重要です。本部会もこの状況を踏まえて、この研究分野の活性化を目指した活動を組織的に進める必要があります。ただし、この分野の新たな課題は原子力に関わる様々な分野との学際的な研究が中心となることが重要なポイントであると認識しています。他の分野との共同研究を進めるには、まず学会全体にその重要性を認識されることが大事であると考えます。そのために、他の部会との共同企画行事などもこれまで同様に力を入れてゆきたいと考えます。また今後の新たな研究の展開を進めるためには、若手研究者の力が必要であることは言うまでもありません。このためにはこれまで進められてきた若手研究者を増やすための活動も重要な課題です。このような部会の活性化を考える上に最も重要なことは、この分野から多くの魅力的な研究が出てくることだと思います。部会員の皆様には、学会において魅力ある研究成果の報告をしていただくこと期待しています。

このような諸問題について対応するため、占部（福山大学）、外川（原子力機構）両副部会長および運営委員の方々を中心に、部会員の皆様のご意見をよくお聞きしながら取り組みたいと考えています。どうかご協力のほどよろしくお願いいたします。